

## メキシコ政治情勢（２月）

### 〈概要〉

#### 【内政】

- ・ ４日，エル・フィナンシエロ紙は，ロペス・オブラドール大統領の支持率等に関する世論調査を発表した。
- ・ １５日，メキシコ市内で行方不明になっていた７歳の少女の遺体が発見された。同事件は，メキシコ市で発生した他の女性殺人事案と合わせ国内で大きく報道された。
- ・ ２８日，メキシコ国内で最初の新型コロナウイルス感染者が確認された。

#### 【外交】

- ・ ５日，エブラル外相は，訪墨したコザック米国務次官補代行（西半球担当）と会談した。
- ・ ６日，エブラル外相は，訪墨したラブロフ露外相と会談した。
- ・ ６日，訪墨したジャマテイ・グアテマラ大統領が連邦上院において演説を行った。
- ・ １１日，メキシコ市においてM I K T A外務次官会合が開催された。
- ・ １２日，エブラル外相は，メキシコ国内における移民政策の実施状況について報告した。
- ・ １６日及び２８日，墨外務省は，中国・武漢からの移送を希望したメキシコ人が帰国した旨発表した。

### 〈内政〉

- １ ロペス・オブラドール大統領支持率等に関する世論調査  
４日付当地「エル・フィナンシエロ」紙は，ロペス・オブラドール大統領の支持率，同大統領の政策等に対する世論調査結果を発表した（同紙による独自調査。１月１０～１１日及び２４～２５日に実施。全国約８２０名に対する電話調査形式。誤差±３．４％）。
  - （１）ロペス・オブラドール大統領支持率（カッコ内は前回調査時（１月発表）の数字）
    - 支持する：７１％（７２％）
    - 支持しない：２８％（２７％）
  - （２）主要課題における現政権の対応
    - （ア）公共治安
      - 大変良い／良い：３１％（２７％）
      - 悪い／大変悪い：５６％（５１％）
    - （イ）経済
      - 大変良い／良い：４５％（４３％）
      - 悪い／大変悪い：３３％（３１％）
    - （ウ）汚職
      - 大変良い／良い：３８％（４１％）

- 悪い／大変悪い：44%（33%）
- (エ) 教育
- 大変良い／良い：50%（50%）
- 悪い／大変悪い：26%（24%）
- (オ) 貧困
- 大変良い／良い：34%（40%）
- 悪い／大変悪い：42%（33%）
- (カ) 保健
- 大変良い／良い：36%（41%）
- 悪い／大変悪い：41%（32%）
- (3) ロペス・オブラドール政権の以下の決定，対応についてどのように評価するか。
- (ア) 墨米加新協定（USMCA／T-MEC）
- 大変成功している／ある程度成功している：62%
- ほとんど成功していない／全く成功していない：31%
- (イ) 雇用創出
- 大変成功している／ある程度成功している：58%
- ほとんど成功していない／全く成功していない：41%
- (ウ) 保健の公共サービス
- 大変成功している／ある程度成功している：50%
- ほとんど成功していない／全く成功していない：49%
- (エ) 中米移民への対応
- 大変成功している／ある程度成功している：47%
- ほとんど成功していない／全く成功していない：51%
- (オ) 大統領専用機の売却
- 大変成功している／ある程度成功している：39%
- ほとんど成功していない／全く成功していない：60%
- (4) 移民政策
- (ア) 米国へ到達することを目的として墨国内を縦断する移民らに対し，墨政府はどのような対応をするべきであると思うか（カッコ内は昨年11月調査時の数字）。
- ・そのような移民に対しては国境を閉鎖すべきである：64%（49%）
  - ・移民らを支援し，自由に縦断できるようにすべきである：34%（47%）
- (イ) 移民の流入を阻止するために国家警備隊が配備されることに賛成か反対か（カッコ内は昨年7月調査時の数字）。
- ・賛成：73%（55%）
  - ・反対：26%（43%）
- (ウ) メキシコが中米移民の流入を阻止するためのトランプ米大統領の「壁」になってい

るとする意見があるが、右見方に賛成か反対か（カッコ内は昨年7月調査時の数字）。

・賛成：52%（44%）

・反対：47%（53%）

(5) インフラプロジェクト

(ア) 現政権において最も重要なインフラプロジェクトはどれだと思うか。

・サンタルシア新空港：44%

・ドス・ボカス新規製油所：26%

・マヤ鉄道：11%

・その他：2%

(イ) ロペス・オブラドール大統領は、サンタルシア空港が2022年3月21日に完成する旨発言したが、同期間内に完成すると思うか。

・思う：52%

・思わない：38%

## 2 相次ぐ女性殺人（femicidio）事案

(1) 15日、行方不明になっていた7歳の少女ファティマ・アルドゥリゲットの遺体がメキシコ市南部で発見された。少女は、11日、小学校からの下校時に家族ではない女性によって連れ出されて以降、行方不明になっていた。発見された遺体には、暴行を受けた痕があった。19日、少女殺害の容疑者2名がメキシコ市警察によって逮捕された。容疑者は、少女と顔見知りであったと見られる。

(2) 少女の誘拐・殺害事件は、国内で大きく報道され、同月9日にパートナーの男性によって殺害されたイングリッド・エスカミージャの遺体写真が警察によって報道機関へ漏洩した事件など他の女性殺人事案の影響もあり、政府に女性殺人に対する効果的措置を求める市民運動を増大させた（注：女性殺人（femicidio）とは、被害者女性と血縁、婚姻、交際関係等にあった者による殺人や、性暴力を伴う殺人等を指す）。

## 3 メキシコにおける最初の新型コロナウイルス感染者の確認

(1) 28日朝、ロペス＝ガテル保健省予防・保健促進担当次官は、メキシコ市の35歳男性の新型コロナウイルスへの感染が確認された旨発表した。右は、メキシコにおける最初の感染事例となった。同日夕方、ロペス＝ガテル次官は、さらに2名の感染者（メキシコ市及びシナロア州）が確認された旨発表した。以上3名の感染者は、2月第3週にイタリア北部ベルガモで開催された国際会議に出席していたとされる。

(2) 29日、コアウイラ州の20歳の女性が検査の結果、新型コロナウイルスへの感染が確認された。女性には、イタリアへの渡航歴があった。

## 〈外交〉

### 1 コザック米国务次官補代行の訪墨

5日、エブラル外相は、メキシコ市において、コザック米国务次官補代行（西半球担当）と会談し、武器密輸対策に係る二国間戦略の進捗状況、墨米加新協定（USMCA/T-MEC）の枠組における投資促進、墨南部・中米北部における開発協力プロジェクトの進捗等について話し合った。同会合は、墨米政府が恒常的に行っている対話の一環として実施された。

### 2 ラブロフ露外相の訪墨

- (1) 6日、エブラル外相は、メキシコ市においてラブロフ露外相との会談を行った。露外相のメキシコ訪問は2010年ぶりとなった。両外相は、地球規模課題及び地域的議題について話し合い、両国の国際的立場、国連、G20及びAPEC等において、両国間の共通理解を確立させることが重要である点で一致した。
- (2) 両外相は、メキシコの2021～22年の国連安保理非常任理事国選挙立候補に向け、緊密な連携をとることで一致した。また、エブラル外相より、ラテンアメリカ・カリブ諸国共同体（CELAC）議長国としてのメキシコの構想、展望について説明がなされた。両者は、二国間の政策協議・対話メカニズムの定期的な実施について合意し、2020年第二四半期に二国間・多国間協議を実施予定である。
- (3) 両国の経済関係に関し、エブラル外相は、農産品やテキスタイル等の墨製品のロシア市場へのアクセス向上を目指す旨述べ、ラブロフ外相は、鉄鋼取引について両国間の協議を維持する必要がある旨述べた。両者は、それぞれの国内政府機関と協力し、両国間の貿易及び投資の増大を目指すとともに通商上の懸念に対応していくことで一致した。

### 3 ジャマテイ・グアテマラ大統領の訪墨

- (1) 6日、ジャマテイ・グアテマラ大統領が訪墨し、連邦上院において演説を行った。また、同日、エブラル外相とプロロ・グアテマラ外相が二国間協力及び開発について会談を行った。
- (2) 連邦上院での演説において、ジャマテイ大統領は、墨グアテマラ国境に「繁栄の壁（muros de prosperidad）」を共に築こうと呼びかけた。同大統領は、繁栄の壁を築くことができれば、人々は母国に留まり、危険を冒してまで北に向かうことはないだろうと述べた。また、ジャマテイ大統領は、上院議員らに対し、両国の国境地域に位置する市町村をカバーする開発地域の設置を呼びかけるとともに、同地域の発展を促進するための投資銀行の開設を提案した。同大統領は、壁や法律、もしくは恐怖を持ってしてもグアテマラからの移民を止めることはできないと述べ、機会や雇用の創出を通じ（母国に）留まる理由を与えることが唯一移民を止める方法であると述べた。

- (3) 同大統領は、墨政府側にもグアテマラと兄弟国として連帯し、地域開発を行う用意があると述べ、歴史上最良の二国間関係を築く意思を表明した。同大統領は、上院議員らに対し、通商関係の強化、早急に航空自由化のための文書へ署名実現に向けた支援を要請した。同大統領は、マヤ文明地域への観光客増大を図るため、航空自由化に関する政策を見直す必要があると述べた。

#### 4 MIKTA外務次官会合の実施

- (1) 11日、メキシコ、インドネシア、韓国、トルコ、豪州の対話協力枠組であるMIKTAの外務次官会合がメキシコ市で開催された。ベントゥーラ墨筆頭外務次官を議長として、国際・地域問題、マルチラテラリズムの将来、地球規模課題への対応に向けた協力等につき協議され、共同宣言が採択された。
- (2) 共同宣言には、MIKTA諸国の経済・観光振興、多国間システムの強化、持続可能な発展と社会的包摂の拡充といった分野での取組促進、マルチラテラリズムと国際協力へのコミットメントの表明、多国間機関や国際法の強化への支持、WTOを中心とした多国間システムへの支持及び保護主義への反対等が盛り込まれた。

#### 5 移民政策の実施状況

- (1) 12日、エブラル外相は、大統領定例記者会見の場で移民政策の実施状況について報告を行った。同外相によると、墨米国境における不法越境者数は、最近8カ月間で74%減少し、移民保護プロトコル（「Remain in Mexico」プログラム）に基づき米国の審査を待つ中米移民の数は、5万人から2,500人まで減った。また、3千人の中米出身移民が墨南部で雇用機会を得るとともに、エルサルバドルでは6千人が墨政府の社会プログラム「生命の種まき」に参加している。
- (2) 同日、墨外務省は、移民政策の実施状況に関するプレスリリースを発表した。同プレスリリースによると、墨政府の移民政策の趣旨は、亡命申請を減らすことなく、不正規な形で移住しようとする人々が抱える高い危険性を減らすことにあり、秩序だった正規の安全な移住の実現を目標としている。また、移民の出身地において尊厳ある生活ができるよう、墨政府はグアテマラ、エルサルバドル、ホンジュラスで6万の雇用を創出するための投資を中心とした、中米統合的開発計画（PDI）を進めている。さらに、国家人権委員会からは、国家警備隊による移民対応業務における人権問題は報告されておらず、墨政策の移民政策は法制度や人権への配慮に基づいて展開されている旨言及している。

#### 6 中国・武漢からのメキシコ人の帰国

16日、墨外務省は、新型コロナウイルスの発生を受けて、中国・武漢からの移送を希望した10名のメキシコ人が帰国した旨発表した。10名のメキシコ人は、フランス

政府の協力によって、武漢からフランスへと移送され、同地で14日間の隔離期間を経て、メキシコへと帰国した。また、同月28日、コロンビア政府の協力により、3名のメキシコ人が武漢からコロンビア・ボゴタへと移送された。3名とも症状が無かったため、メキシコへと移送され、検査を受けた後、それぞれの自宅において14日間の待機措置がとられた。